

GAP で築く持続可能な農業の未来

～令和7年度GAP推進産地の取組～

1 課題の背景とねらい

市原市では水稻農家の離農に伴い、大規模水稻経営体への農地集積が急速に進んでいます。市原市農業振興協会的水稻部会員 120 名のうち、経営規模が拡大している経営体の多くは家族経営であり、さらなる規模拡大には労働力の確保と労務管理体制の整備が喫緊の課題となっています。また、雇用導入後の従業員定着を図るためには、働きやすい労働環境の整備が不可欠です。一部の法人経営体では、GAP（農業生産工程管理）の考え方を活用し、従業員の定着に向けた取組を進めています。

そこで、雇用導入時の労務管理体制の整備や従業員定着に向けた実践方法を学ぶために、市原市農業振興協会水稻部を GAP 推進産地に位置付けて普及活動に取り組みました。

2 普及活動の経過・結果

（1）千葉地域水稻経営研修会の開催

関係機関と連携して、7月31日に水稻経営の承継及び雇用、労務管理に関する研修会を開催しました。水稻部会員7名が参加し、社会保険労務士より講義を受けました。講義では基本的な労務管理体制の整備手順に加え、求職者に選ばれるためのポイントとして、経営の将来性や、働き手の事情に着目したメリットの提示が重要であるとの説明がありました。参加者からは「今後の雇用導入に向けて参考になった」といった感想が聞かれました。現在、雇用導入に向けた雇用契約書の作成や、経営の法人化を検討している2経営体に対し、専門家派遣事業を活用して支援しています。



写真1 労務管理研修の様子

（2）GAP 推進産地視察研修会の開催

GAP の手法を活用した労務管理の実践方法を学ぶため、11月13日に視察研修を開催し、水稻部会員17名が参加しました。視察先として、新潟県十日町市で JGAP に取り組む大規模水稻経営体を訪問し、代表者から講義を受けました。講義では「GAP の手法により改善を重ねることで労務管理体制の整備が進むほか、従業員に会社の理念やルールを理解してもらいやすくなる。」との説明がありました。また、「GAP をする取組は特別難しいものではなく、経営者として当たり前のことを実践するに過ぎない」との説明を受けました。

視察後、参加者からの感想として「従業員にも分かりやすいように道具を置く場所の掲示など、できるところから実践したい」といった前向きな意見が聞かれました。



写真2 道具の保管場所の掲示物の紹介



写真3 GAP の取組についての講義

3 今後の課題

雇用導入に向けて、労務管理体制を整備する意向がある経営体に対しては、専門家派遣事業等を活用して引き続き支援していきます。また、GAP 推進産地については、GAP の5つの柱のうち、人権保護に着目して研修会を開催し、経営者と従業員双方が能力を発揮できる経営体づくりを支援していきます。

4 担当者 市原グループ

5 協力機関 市原市、JA市原市